

## 坂東札所第一番鎌倉最古仏地天台宗大蔵山杉本寺略縁起

当山は天平六年（七三四）の春、光明皇后の御願により大臣藤原房前と僧行基（行基菩薩）に命じ堂宇建立し行基自ら刻むところの十一面観世音を安置された。次に、仁寿元年（八五一）に僧円仁（慈覚大師）当山に参籠して十一面観世音を刻み安置し、また寛和二年（九八五）僧源心（恵心僧都）が花山法皇の命により十一面観世音を刻み安置し、併て坂東第一番の札所と定め、法皇自ら御願札有り、夫れより今日に至るまで貴賤の順札絶えず。時に文治五年十一月二十三日の夜、隣屋より火災起り、類焼の際、本尊三体自ら庭内の大杉の下に火をさけられたので、それより杉の本の観音と今日迄呼ばれたと「吾妻鏡」は伝えている。

其の後、建久二年九月十八日に源頼朝公御堂再興せられ、古今の奇瑞に帰依し賜い供養の日に、上の三尊像を内陣に安置し別に今前に立ち賜う立像七尺の十一面観世音を寄進されたものである。なお昔より本尊の賞罰の数ある中に放逸の輩、信心なくして御堂の前を馬にて乗り打ちする者は必ず落馬すると云うので、当時は下馬観音と云った。

時に建長寺の開山大覚禪師が此の観音堂に参籠し、尊像を拝し祈願し禪師が所持し賜う袈裟を以て行基菩薩御作の慈眼を覆い奉り、夫れより覆面観音と号し、往來の不浄は彼の袈裟により落馬等の利罪も止むと云う。依て頼朝時代より秘仏とされたのである。

## ◎ 当山奉安仏

不動明王——作者不明

（脇立）——毘沙門天王——宅間法眼げん作



（脇立）——地蔵菩薩——運慶作  
同 尊——安阿弥作

本尊前立——十一面観音——頼朝公寄進——運慶作

堂内右脇 観音三十三身——伝、運慶作

山門仁王尊——運慶作

大蔵辨財天

新、十一面観音（当山前々住職 沙門慈海僧正作）

（昭和三十八年六月十八日開眼供養）